漢文 重要語句 まる見え1枚シート

読みと意味で押さえる虚詞と実詞 — まずは「読めれば意味が決まる」語から覚えよう。漢文は同じ字でも読みが変われば意味が変わる！

★★★ 入試超頻出　★★ よく出る　★ 余裕があれば　💡 覚え方　▶ 例文

① 置き字・接続の虚詞（而・於・之・以） ▶ ② 再読文字・すなはち系 ▶ ③ 多義語（読み分け） ▶ ④ 仮定・条件・抑揚の接続語 ▶ ⑤ 重要実詞（君子・聖人・百姓ほか）

まず虚詞で「文の骨組み」をつかみ、次に多義語の読み分け、最後に意味そのものが大事な実詞へ。

読む順：左の列を上から順に ▶ 終わったら 右の列へ（見出しの番号が順番です）

1 虚詞・助字（文の骨組みをつくる）

字	読み	意味・用法	頻出
▼ 接続・置き字			
而	しかして／しかも／しこうして 多くは置き字（読まない）	順接「そして・〜て」と逆接「しかし・〜のに」の両方。前後の意味で判断。 読まない置き字になることが多い	★★★
之	の／これ／ゆく（く）	①助詞「の」（連体）②代名詞「これ」（目的語）③動詞「ゆく＝行く」	★★★
其	そ（の）	「その・それの」。指示・連体修飾。文頭では「そもそも」のニュアンスも	★★
於・于・乎	お（いて）／〜に／〜より 原則読まない置き字	場所・対象「〜に・〜において」、起点「〜から」、比較「〜より」、受身の対象を示す	★★★
以	もっ（て）	手段「〜で・〜によって」、理由「〜のために」、目的語の提示。「以爲（おもへら）く」で「〜と思う・考える」	★★★

💡 **置き字の四天王「於・于・而・矣」**＝原則読まずに送り仮名だけで処理。「而」は上の語を「〜て／〜して」と送れば順接、「〜ども／〜ものの」と送れば逆接。

▶ **例文**：青取之於藍、而青於藍。 → 青は之を藍より取りて、藍より青し（青色は藍から取るが、もとの藍よりも青い＝出藍の誉れ）。於＝比較「より」、而＝逆接「〜が」。

2 再読文字・「すなはち」系（読みで意味が決まる）

字	読み	意味	頻出
▼ 再読文字（二度読む）			
将・且	まさ（に）〜（ん）とす	「今にも〜しようとする・〜するつもりだ」。下から返って「す」と二度読む	★★★
▼ すなはち（接続）			
則	すなは（ち）	「〜ならば（その時は）」。仮定・条件の帰結を示す（A則B＝AならばB）	★★★
乃	すなは（ち）	「そこで・なんと（意外にも）」。前を受けて改まって述べる。意外性を含む	★★
即	すなは（ち）	「すぐに・とりもなおさず」。即時・即同一（即位の即）	★★
因	よ（りて）／よ（って）	「そこで・それによって」。前を原因として次の行動へつなぐ	★★
遂	つひ（に）	「とうとう・そのまま・ついに」。一連の流れの結末	★★

💡 **「すなはち」3兄弟の使い分け**＝**則**は「〜ならば」（条件）、**即**は「すぐに・つまり」（時間・同一）、**乃**は「そこで・なんと」（意外・改まり）。迷ったら則＝条件文の中と覚える。

▶ **例文**：学而不思則罔。 → 学びて思はざれば則ち罔し（学んでも考えなければ、得るものがない）。則＝「〜ば（ならば）」。

3 終助詞・断定の助字（文末を決める）

字	読み	意味・用法	頻出
也	なり／や	文末で断定「〜である」。文中・文末で疑問・詠嘆「〜か・〜よ」	★★★
矣	—（読まない置き字）	断定・完了・強調「〜（た・だ）」の語気を添える。送り仮名で処理	★★
焉	えん／—	文末で断定・強調の置き字。文中では「これ・ここに」「いづくんぞ（反語）」	★★
耳	のみ	限定「〜だけだ・〜にすぎない」。＝爾・已・而已（矣）	★★

💡 **限定の「のみ」**＝耳・爾・已・而已・而已矣 はすべて「〜だけだ」。とくに「耳（のみ）」を最優先で。

4 多義語（読み分けで点差がつく）

字	読み	意味
為	な（す・る）	「する・作る・〜となる」
	た（り）／ため（に）／〜る	断定「〜である」／目的「〜のために」／受身「為A所B＝AにBられる」
以	もっ（て）	手段「〜で」／理由「〜だから」
	おも（へら）く	「以爲（おもへら）く」で「〜と思う・考える」

字	読み	意味
見	み（る）	「見る・会う・お目にかかる」
	〜（ら）る	受身「〜される」。見＋動詞で受身
数	しばしば	「たびたび・何度も」（副詞）
	かず／かぞ（ふ）／すう	「数・数える」／「道理・運命」（すう。数奇など）
之	の	連体「〜の」
	これ	代名詞「これ（を）」
	ゆ（く）	動詞「行く」

▶ **例文**：吾嘗終日而思矣。 → 吾嘗て終日而思へり（私はかつて一日中考えたことがある）。而＝置き字、矣＝強調の置き字。

▶ **例文**：信而見疑。 → 信にして疑はる（誠実であるのに疑われる）。見＝受身「〜（ら）る」。

💡 **受身の形は3つ**＝①見＋動詞 ②為A所B（AにBされる） ③於で対象を示す（労力者治於人＝人に治められる）。

5 仮定・条件・抑揚の接続語

字	読み	意味・用法	頻出
▼ 仮定・譲歩			
雖	いへど（も）	逆接の仮定・確定「〜といっても・たとえ〜でも」	★★★
縦	たと（ひ）	「たとえ〜でも」。仮定の譲歩	★★
苟	いやし（くも）	「もし〜ならば・かりにも」。仮定（しばしば「苟くも〜ば」）	★★
▼ 順接・帰結			
故	ゆゑ（に）／ふる（し）	順接「だから・それゆえ」／形容「古い・もとからの」	★★★
是以	ここ（を）もっ（て）	「こういうわけで・だから」。前の事を受けて結論へ	★★
然	しか（り）／しか（し）	「そのとおりだ・そうである」／文頭で「しかし」	★★
然則	しか（らば）すなは（ち）	「そうであるならば（その時は）」。前提を受けて推論	★★
▼ 抑揚（いはんや）			
況	いは（んや）	「まして〜はなおさらだ」。多く文末に「をや」を伴う（況んや〜をや）	★★

💡 **抑揚形「Aスラ〜、況ンヤBヲヤ」**＝「Aでさえ〜なのだから、ましてBはなおさらだ」。「すら／だに」とセットで覚える。

▶ **例文**：死馬且買之、況生者乎。 → 死馬すら且つ之を買ふ、況んや生ける者をや（死んだ馬（の骨）でさえ買う、まして生きた名馬はなおさらだ）。

6 重要実詞（意味そのものが問われる）

語	読み	意味	頻出
▼ 人物・身分			
君子⇔小人	くんし⇔せうじん	君子＝徳の高い立派な人／小人＝徳のない取るに足らぬ人（対義で頻出）	★★★
聖人	せいじん	最高の徳と知をそなえた理想の人物（堯・舜・孔子など）	★★
士	し	学問・教養をそなえた知識人。役人・武人をさすことも	★★
百姓	**ひゃくせい** 「ひゃくしょう」と読まない	「人民・民衆」。農民の意ではない点に注意	★★★
布衣	ほい	「庶民・無位無官の人」。麻の粗末な服を着る者の意から	★★
▼ 思想・徳目			
仁・義・礼・智・信	じん・ぎ・れい・ち・しん	儒教の五常。仁＝思いやり／義＝正しい筋道／礼＝礼儀・秩序／智＝知恵／信＝誠実・信頼	★★★
道・徳	みち・ダウ／とく	道＝人として行うべき道理・教え／徳＝身についた立派な品性・めぐみ	★★
▼ 国家・政治			
社稷	しゃしょく	「国家」。社＝土地の神、稷＝五穀の神。転じて朝廷・国家をさす	★★

💡 **読み注意の最重要3語**＝「百姓＝**ひゃくせい**（人民）」「布衣＝**ほい**（庶民）」「社稷＝**しゃしょく**（国家）」。意味と読みをセットで暗記！

▶ **例文**：君子喩於義、小人喩於利。 → 君子は義に喩り、小人は利に喩る（立派な人は道義をよく知り、つまらぬ人は利益をよく知る）。於＝対象「〜に」。